



熊本・<sup>ひなぐ</sup>日奈久温泉 路地裏ツーリズム

## 日奈久温泉 路地裏ツアーリズム

ふと散歩にでかけるように、路地裏へ旅にでる。

それが、日奈久温泉『路地裏ツアーリズム』。

ここには遊園地も高層タワーもないけれど、

銭湯と猫がよく似合う風景が残っています。

朝市、温泉、ラムネに、日奈久ちくわ。

よく遊ぶ子ども達がいる、それを見守る大人がいます。

洗面器をもったおじいちゃんが、さっそうと自転車でかけぬけ、

先人たちの立ち寄った名旅館が当時の趣のまま佇んでいます。

日奈久のふつうは、他の街にはない、ふつうだったりするのです。

いつもの履き慣れた靴をはいて、

日奈久の路地裏へ、迷い込んでみませんか。

### 日奈久の歩き方

其の一

地図を片手に迷子になろう。



其の二

ちくわの誘惑には負けよう。



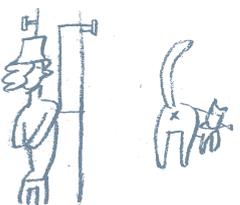
其の三

街の井戸端会議に参加しよう。



其の四

探偵気分で猫を追跡。



其の五

野の花をみつけたら、好きな人を思い出そう。



## 🕒 温泉神社



今から600年前、孝行息子が神様のお告げを受けて発見したという日奈久温泉。その神様をまつる高台の神社で、しばし時間を忘れる。  
 棧敷席 みんなのイベント広場として今でも使用されている。(へ-5)



本殿、竜や鳳凰、麒麟などの彫刻も、忘れずチェック。



お告げの石(六郎左衛門が石の下を掘ったところ)、こんこんとお湯が沸いたとか。

## 🕒 商店街物色



珍品を売るお土産物屋やタイムスリップしたかのような看板に思わず、にやり。あなたの目利き次第。



### 竹細工店

かつて湯治客が買い求めたのが、日奈久の竹細工。店頭には素朴な表情の人形に一目ぼれ。職人さんの実演も見学。(に-5)



### 喫茶「我路」

いわゆるありがちな店名の看板を発見。ドアをくぐると期待通りの純喫茶！ふわふわのミルクセーキをゴクリ。(は-4)



### 日奈久ちくわ

どこからか焼きたての香ばしいにおいが。ちくわのしわは、一度ぶっくりふくれた後にできるらしい。なるほど。(は-4)

## 🕒 村津邸

黒い平瓦の目地に、白く漆喰を盛った「なまこ壁」。防火、防湿用に普及した建築様式が、数軒残る。カメラを構える。(は-6)



## 🕒 薩摩街道



温泉街を貫く通りは、参勤交代でも使われたという薩摩街道。味噌屋や竹細工店など、商人の町の面影をくすかに残している。



## 🕒 木造旅館めぐり

明治末期から昭和にかけて作られた希少な木造旅館は、宿泊、立ち寄り湯はもちろん館内の見学もできる。随所に光る匠の技に心を奪われる。

早起きして、朝食前にぶらりと朝市にでかけよう。

### 🕒 朝市

街中で開かれる朝市では、安くて新鮮な野菜や魚介類が手に入る。駅前(ろ・8)、J・A倉庫(い・4)、金波楼前(は・4)



いったん旅館に戻ったら朝食をすませ、準備を整え、いざ出発!!

## 🕒 日奈久温泉駅

また来るよ、日奈久。

懐かしい木造の駅。駅員の女性が「おつかれさま」と、熱いお茶をサービスしてくる。人温かい駅。(ろ-8)



## 山頭火句碑・おりや

漂泊の詩人・種田山頭火の「行乞記」は、日奈久の地から始まる。山頭火宿泊の木賃宿「おりや」を見学。(ろ-4)



## 🕒 松の湯



のれんをくぐると、昭和の香りたっぷりの浴場。温泉に浸かりながら地元の人と裸の付き合い。(は-3)

路地裏ツリーズムの一日  
 てくてくと、日奈久

ふらりと路地裏に迷い込んでみる。てくてくと歩いていたら、あの人もこの人もみんな笑顔。はじめての街、という気がしないのは、街並みと人々のおかげかもしれない。心がほんのり温まってきた。

# 温泉

よい湯からよい月へ出た

「山頭火」

日奈久の温泉は、飾りっけのないすっぴんの温泉だ。泉質は、体にやさしい弱アルカリ単純泉。やわらかいお湯とかすかな硫黄の香り、黄色く色づいた湯口が、名湯の証だ。リウマチ、神経痛、切り傷などに効くといわれ600年前から多くの人々が湯治のために訪れて来た。「どっから来なかったな？」と湯気の向こうから地元のおじいちゃんが気さくに話しかけてくれた。病気知らずの八十歳、毎日ここに通っているという元気な笑い声に、名湯であることを再確認した。



松の湯と湯札 昭和一桁に開業された銭湯。脱衣場より低い湯船や、自然換気のための天井の通気口など、随所に創業当時の面影を残す。番台は、湯札を買い求める地元の常連客で毎日賑わっている。(13-3)



## アニマル湯口

湯口といえば：ライオン。ところが日奈久には多くの動物たちが湯口のモチーフになっている。動物園気分で湯口めぐりするの、おもしろそうだ。

新湯 ライオンの湯口(11-5)



新湯 熊の湯口(11-5)



あたらし屋 ライオンの湯口(11-5)



あたらし屋 龍の湯口(11-5)



幸ヶ丘 熊の湯口(11-5)



武士屋旅館 羊の湯口(11-3)



新湯 今では珍しい総タイル張りの浴場。(11-5)



東湯 地域の人の交流サロン(社交場)として世間話に花が咲く共同銭湯。ロッカーや番台にも昔ながらの風情が漂う。天井にすだれもおもしろい。(13-5)



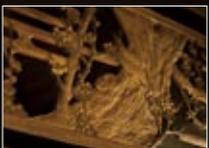
幸ヶ丘 自家泉源を持っている。熱く、とろりとした肌触りで、地元の人にも人気あり。家族湯もある。(13-5)

# 旅館

よい宿で  
どちらも山で  
前は酒屋で  
― 山頭火 ―



時代は変化していく。私たちは便利さと引き替えに失ってきたものも多い。ただ日奈久は違う。明治、大正、昭和と時代を感じさせる木造の旅館が今もなお残り、時を経てなお味わいを深め、私たちに新しい発見を与えてくれる。床の間や天井、飾り障子、細工など、油断していると見逃してしまいそうなほど、細部にまで日奈久の技が宿っている。旅館の廊下を少し歩いては障子にみとれ、階段を上っては手すりが気になり：質問ばかりしていたが、女将は笑顔で応えてくれた。どうやら日奈久には、匠の技ともてなす心がしっかりと根づいているようだ。



柳屋 昔、海が埋め立てられる前にはこの窓から漁にでる船がいくつも見えたという。当時の様子が格子のデザインとして記憶を刻む。大広間の松竹梅の欄間も見事。(は14)

## 老舗の風格を残す木造建築

希少な木造三階建ての旅館をはじめ、内庭や吹き抜けが見事な旅館や、増築を幾重にも重ねた立体迷路のような旅館など、日奈久ならではの旅館建築が楽しめる。お気に入りの旅館でくつろぎ、温泉につかり、とれたての海の幸に舌鼓：思わず顔がほころぶ贅沢がここにある。

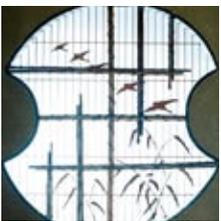


磨き込まれ、黒光りする階段

泉屋 見事な飾り障子に囲まれた部屋。天井が曲線をもって上げられた「折上げ格天井」が格式の高さを物語る。(は3)

## 日奈久アート

漆塗りの階段や床の間に施されたタイル、飾り障子の細工など、斬新な発想と確かな技術に支えられた、日奈久ならではの芸術が宿っている。



泉屋 声に雁の飾り障子(は13)



山海荘 光の陰影が美しい、柳屋 全て竹でできた日奈久松林の欄間(は13) ならではの床の間(は14)



鏡屋 タンスのように移動できる珍しい床の間(は13)



泉屋 梅の飾り障子(は13)



金波楼 細部に光る、獅子の釘隠し(は14)



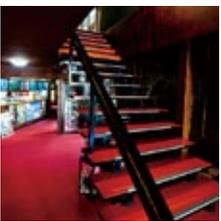
新湯 違い棚のカラフルなタイル装飾(は15)



金波楼 明治末期の和と洋をモダンに組み合わせた旅館。作り手の遊び心が伺える。玄関から中庭を廻る回廊は見所の一つ(は14)



泉屋 贅沢な漆塗りの階段(は13)



金波楼 洗面所の磁器タイル(は14)



新湯 違い棚のカラフルなタイル装飾(は15)

## 誰もがスポットライトを浴びる、日奈久劇場。

旅館の夜といえ、やっぱり宴会。ど派手な仕掛けはいらぬ。ただお客さんの合の手があれば充分。昭和時代、新婚旅行や社員旅行として多くの人々が集まり、騒いだであろうステージは今も現役。日奈久の熱い夜は続く。



あたらし屋 ミラーボールに、畳に、ちょうちん。絶妙なバランスで今と昔が融合する。(は-5)



不知火ホテル ドレス、ワンピースにセーラ服…そう、ここはコスプレ(仮装)ができる宴会場。(に-3)



ひらやホテル 演歌、昭和歌謡、そしてどじょうすくい。そんな王道の宴会が堪能できる正統派宴会空間。(は-5)

## なぜここに：旅館で出逢う珍品・名品

骨董品に飛行機のプロペラ、祠、あざらしの剥製など、明治大正から続く旅館には、たくさんのお名品、珍品が眠っている。「？」と思ったら、ぜひお尋ねを。そこには、思いがけない宿の歴史やこだわり、想いが込められているのだ。



あたらし屋 旅館の中になんと神社が。昔から地元の神様を大事にする風習が日奈久に根付いている。(は-5)

宝泉 いらっしゃいませと迎えてくれたのは、看板娘の剥製たち。「日奈久のごまちゃん」がいる個室もあるそうで…目があったら挨拶しよう。(ろ-4)



鏡屋 玄関に飾ってあるのは、特大のしめ縄?! じゃなく飛行機のプロペラ。木製のプロペラはご主人が戦時中乗っていた戦闘機のものだとか。(に-3)



# 路地裏

今日の道のたんぽぽ咲いた

山頭火

ブーゲンビリアが美しい路地裏、しゃぼんの香りのする銭湯の路地裏、街の人々が楽しくおしゃべりしている路地裏：日奈久にはたくさん路地裏がある。街全体が路地裏とも言える。観光地らしくない、そこがまたいい。ぜひ、ここでは、いつもよりゆっくり歩いてほしい。軒先に所狭しと並ぶ手のゆき届いた鉢植え、あくびをする猫、どこからともなく聞こえる街人たちの笑い声。日常はこんなにも豊かなものなのだ教えてくれる。

「こんにちは」という声でふりかえると、ランドセルの子どもが礼儀正しくペコリと頭をさげて通り過ぎていった。日奈久には、遠い日を今日のように思い出させてくれる路地裏がある。



山頭火の句板 温泉街には、山頭火が詠んだ600枚の句板がある。自分に合った一句を探して歩くのもおもしろい。



大漁の神様(恵比寿様) (は-3)



目の神様 (は-6)



歯の神様 (は-6)

芸の神様(弁財天) (は-2)



猫も笑顔で(?)お出迎え。



神様にお供えをする新湯旅館の女将さん

**路地裏の神様**  
日奈久の路地裏には、神様がいます。耳の神様や目の神様、手足の神様など、珍しい体の神様たちがいる。それは湯治の街・日奈久ならではの信仰なのかもしれない。今もなお感謝の気持ちを忘れて、朝夕手を合わせている街人たちがいる。



手足の神様 (は-7)



街角おもしろギャラリー



タバコ、冷えます？



この足、とまれ。



透明人間、出没注意！？



路地を彩るブーゲンビリア。



足湯バス停…バスは来ません。



温泉街をトコトコ走る、一両列車。



おじいちゃんと散歩



ひと風呂あびよっと。

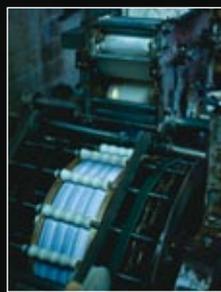
### 路地裏の醍醐味

街人の井戸端会議にまじり「わっはっは」と大笑い。「おいで、おいで」と手をのびした猫ににらまれ、苦笑い。日奈久の路地裏は、そんな昔ながらの幸せに出会える場所なのかもしれない。着飾っていく観光地では味わえない、普段着でいく路地裏ならではの醍醐味がここにある。

### 路地裏散策 コマ写真

# 食

食べものあたたかく  
手から手へー山頭火ー



ちくわ店では、製造風景を見ながら焼きたてを味わえる。本場ならではの。

「日奈久竹輪は食べた方がいい」熊本出身の友人の言葉だ。里帰りするとちょっと日奈久まで足をのびし、必ず買って帰るといふ。路地裏を歩いていると、どこからともなく竹輪の匂いが漂ってくる。「これだな」とさっと購入。気軽に買える手頃さがうれしい。プリッとした歯ごたえで思わずにやけてしまう。噂は本当だった。海の幸に恵まれた日奈久、竹細工で有名な日奈久に「竹輪」が根付いたのも自然なことだったのかもしれない。昔から変わらないラムネやニッケ玉、和菓子に晚白柚。次の角を曲がると、何が待っているのだろう。竹輪の匂いか、温泉の香りか、と、想像しながら歩くのも日奈久ならではの楽しみ方かもしれない。

## プリッとうまい。昔ながらの日奈久ちくわ

明治初期より人気を博し、地元ではもちろんお土産として多くの人々に愛されてきた熊本名産・日奈久ちくわ。お土産に持ち帰り、あーもっと買ってあげば良かったと、お取り寄せの電話をかける人も多いのだとか。



おおぎちくわ 昔ながらの手にぎりで焼いている。普通より一回り大きな大ちくわが人気。(ろ-5) TEL0965-38-0662



とらや ちぎり天が人気。イクメン三代目に会えて、試食もできる。(に-4) TEL0965-38-0179



日奈久竹輪岩崎本店 日奈久ちくわの元祖。取れすぎたハモをすり身にし竹に巻いて焼いたのがはじまり。(に-5) TEL0965-38-0715



湯野竹輪 ちくわにちわわ。看板娘のおばちゃんがいる。(は-4) TEL0965-38-0833



片山ちくわ 八代海の生ハモを使ったこだわりの味。チーズ入「ちっちゃい天」も人気。(に-3) TEL0965-38-0045



駅前ちくわ ちくわは普通より大きめで、やわらかい。午後営業。(ろ-8) TEL0965-38-0790

## 旅の思い出をお持ち帰り。



日ノ本サイダー 火の国ラムネ地サイダー。昔から変わらぬデザイン、変わらぬ味。(い-8、に-5)



ニッケ玉 やさしい甘みが懐かしい。(へ-1)



オリジナル焼酎(は-1)



小崎侃デザインの山頭火タオル入浴のお供に。



ばんべいゆ 晚白柚 ~最大25cm、重さ4kg~ 八代特産の世界最大の柑橘類。冬には旅館で晚白柚風呂も楽しめる。



銘菓「お告げの石」 なつかしの下駄菓子を晚白柚風味に仕上げました。(へ-1)



桑原健次郎さん  
桑原竹細工店二代目。「ひごが取れるようになれば、8割完成」と笑うが、厚さ数ミリに竹を割っていく竹ひご取りが一番難しい。



板角力 ふたりの力士の細い足首、無表情にもみえる真剣なまなざし。見れば見るほど、愛着がわいてくる。棒をゆらして、力士たちの名勝負を演出する。大人でもついつい、のこったのこった!と声のでてる愛嬌のある竹細工。



象嵌とは、素地に模様を掘り込み、長石を埋め込む技法。



十二代上野浩之さん  
「先人達の想いと技法を受け継ぎ、そこにそれぞれの個性を表現し、新しい伝統を創りだしていきたい」と語る。



細川公に愛された工芸 高田焼 上野窯  
「日奈久には、青磁象嵌(せいじそうがん)の技法を受け継ぐ、肥後随一の古陶「高田焼上野窯」がある。細川家に愛され、四百年余りの歴史を誇る高田焼の工房には、十二代上野浩之さんの作品とともに、次代を担う長男浩平さんの作品も並べられ、高田焼の歴史と未来を感じることができる。(は-7)

## 今と昔を紡ぐ、「竹細工」の技と心。

昔は輸送用のコンテナも竹細工で造っていたというほど、日奈久では竹の技術が発展し、今もなお受け継がれている。箬や弁当箱、竹かごなど、ちよっとした一品があるだけで、日常が暖かくなる。日々の豊かさというものは、そんなささやかな贅沢の中に潜んでいるのだと教えてくれる。(は-5、ほ-5)

ラーメン屋さんのお箸が見事な竹箸だったり、浴場に置かれた竹かごの端正な造りに見とれたり。竹細工で有名な日奈久では、土産物として竹があるのではなく、それは生活の中に入りかきと根付いている。どれもじっくりと丁寧に馴染み、少々のことでは歪まない、丈夫で端正な逸品ばかり。また、日奈久で作陶している高田焼も特記すべき工芸の一つ。四百年間、変わらない技法で守り続ける高田焼は、新しい時代の風を巧みに取り入れながら、進化している。日奈久の民芸品は、特別な日常品であり、日常の芸術品であるかもしれない。

# 民工藝

つぎつぎに力をこめて  
力と書く ー山頭火ー



おきんじょ人形 日本全国津々浦々、様々なけしはあるが、まさか手と足がついたけしがあるとは。これは「おきん」という美人の湯女をしのぶ人形で、昔はままとや着せ替え人形として親しまれていた。その姿はとても愛くるしい。大・中・小・特大とありますが、あなたはどれにします?! (は-5、ほ-5)

# 日奈久の人々

古くからたくさんの方が訪れてきた日奈久温泉は、随所にもてなしの心が染み込んでいる。日奈久の街が味わい深いように、日奈久の「ひと」もまた味わい深いのだ。気軽に声をかければ、まるで久しぶりにあった友人かのように、陽気に話をしてくれるだろう。

日奈久温泉街案内人の会 池田正一さん、加代子さん  
薩摩街道沿いの池田酒店は、おもてなしの心120%の手作り道の駅。店頭「笑い場所」の看板の通り、いつも笑い声が絶えない。正一さんは、山頭火姿で街を案内する名物ガイド。



おきんじょ会・9月は日奈久で山頭火実行委員会 佐藤タエさん  
教員を退職後、日奈久温泉駅管理と、空き家を活用した食事処「なかはら」を切り盛りする会を立ち上げた一人。まちづくりにガイドにと、忙しくも楽しい毎日。



YOU・湯の会 田村厚子さん、松本美佐緒さん  
女性の視点からおもてなし向上に取り組む。浴衣プレゼントやハモランチ企画、女将おすすめのお店マップ作り、料理研究、観光PR...と、アクティブな女将さん。



六郎太鼓 伊藤純さん  
かつて、日奈久の壮年たちが叩いた六郎太鼓。10数年間途絶えていたのを、今年、20代30代の息子世代が見事に復活させた。「まだ親父んたちんごつは、打てんばってんが...」。はにかむ笑顔がまぶしい。



製菓店 松永成喜さん  
松永製菓店の4代目。明治時代創業で、ニッケ玉や四ツ目饅頭、下駄菓子、栗饅頭や落雁など、昔ながらのおやつを手作り。添加物、保存料は一切使わず、材料にもこだわる。



湯の里日奈久振興会 今田徳次郎さん  
キス、ハモ、太刀魚、ワタリガニなど、八代海の幸が集まる日奈久水産の代表。地元の振興会会長として、水槽のそばを離れることも増えた。長靴姿がよく似合う、スタローン似のよか男。



ちくわ屋のおかみさん 黄木友子さん  
3号線沿いの小さな店で、昔ながらの手握り、手焼きにこだわった日奈久ちくわを作る。店を営んで40年。長年連れ添った夫婦の息の合った仕事で、今日もおいしいちくわが焼きあがる。



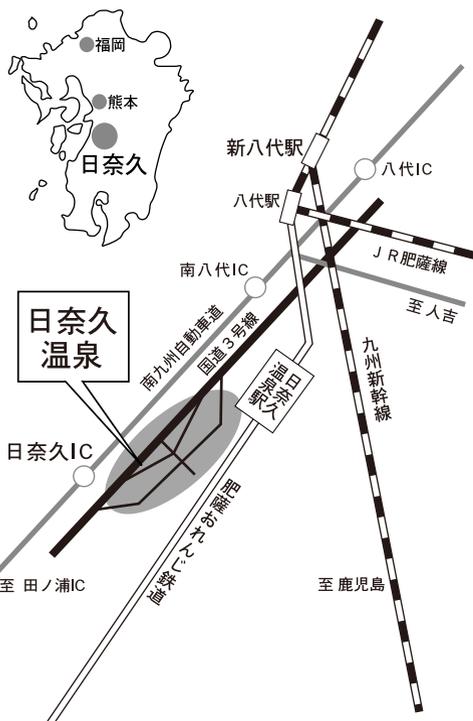
## 日奈久温泉街まち歩き

「日奈久温泉街案内人の会」のボランティアガイドが、薩摩街道歴史散策・木造三階建てめぐり・路地裏ご利益めぐりなど、見るだけでは分からないまちの魅力をご紹介します。ちくわ試食、竹箸のちよっぴりプレゼント付。料金/10人まで1,000円、11人以上お一人増すごとに100円追加  
予約・お問合せ/日奈久温泉観光案内所 TEL/FAX0965-38-0267(火休)





開湯600年記念



#### 交通アクセス

- 電車で  
JR新八代駅または八代駅から、肥薩おれんじ鉄道にて日奈久温泉駅まで20分
- 車で  
福岡ICから日奈久ICまで1時間40分  
熊本ICから日奈久ICまで45分
- 飛行機で  
熊本空港より日奈久ICまで60分
- 船で  
松島天草から八代港まで55分、八代港より車で20分

#### 観光・宿泊のお問合せ

日奈久温泉観光案内所・日奈久温泉旅館組合  
〒869-5134 熊本県八代市日奈久上西町491

TEL 0965-38-0267 (火曜休)  
[www.hinagu.jp](http://www.hinagu.jp)

八代よかこ宣伝隊 TEL 0965-31-8200

平成20年度地域資源∞全国展開プロジェクト  
「路地裏ツーリズム日奈久」開発事業  
発行：八代商工会議所